

KSKP



(平成24年7月) No.70

編集人

公益社団法人 兵庫県精神福祉家族会連合会

本條義和

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1
兵庫県福祉センター6階TEL 078-891-3871/FAX 078-891-3872
Eメール hyokaren@citrus.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.hyokaren.or.jp>

三つの孤立からの脱却

公益社団法人兵庫県精神福祉家族会連合会

会長 本條義和

前号でもお知らせしましたように、兵家連は3月22日県の認可を受け4月1日付で公益社団法人兵庫県精神福祉家族会連合会として登記しました。従来にも増して精神保健福祉向上にまい進していく所存です。ご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

さて、家族相談ハンドブックを読みますと、家族は3つの孤立に苦しんでいると書かれています。3つの孤立とは①情報からの孤立②人間関係からの孤立③支援からの孤立です。

確かに家族の多くは病気の知識がないまま発病に直面します。みんなねっとの家族支援に関するアンケート調査によりますと「本人が初めて精神科を受診して診断を受けた時、その精神疾患について知識があったか」との問い合わせに対し実に9割にのぼる家族が知識がなかったと答えています。

また病気に関する知識が得られるまで約半数の家族が1年以上を要しています。更に「必要な情報が得られず家族の中で意見が一致せず苦労した」と8割の家族が回答しています。

そのように情報が少なくいまだに偏見が根強く残っている地域社会で家族は孤立し、在宅精神障がい者の8割ともいわれる人が何の福祉サービスも、受けずに過ごしていると言われています。

3つの孤立した状況から脱し、精神疾患がある人およびその家族が地域で安心して生活していくためにはこころの健康基本法制定が必要です。(同法についてはみんなねっと5月号をご参照ください)

中でも教育は喫緊の課題です。兵家連では、昨年初めて県教育委員会にも要望書を提出しましたが、期待した回答は得られませんでした。

本年も、引き続き障害福祉局並びに教育委員会にこころの健康教育に関する要望(①学校教育でこころの健康を教育②教職員に対する「こころの健康」の研修③地域でのこころの健康教育)をしていきたいと思います。

**兵家連
賛助会員
募集**

あなたの支援で、兵家連は運営されています！

年会費 団体の場合 1口 10,000円
個人の場合 1口 3,000円
一口以上、何口でも結構です

振込先 郵便振替 01110-4-83568 兵家連



◇◆◇障害者3団体合同で井戸敏三県知事に新年あいさつ◆◆◇

平成24年1月12日 14:00~15:00 兵庫県庁知事応接室で井戸敏三県知事に新年あいさつが行われました。岡田兵身協理事長の進行で、兵身協(岡田理事長等4名)、兵家連(本條・涌波)、県育成会(小原理事長等2名)の順番で挨拶要望が述べられたのち懇談しました。

兵家連からは、

- ①こころの健康の教育の実施 ②精神障害者相談員制度の法制化
- ③精神障害者の就労について などを要望しました。

特に①②については、県知事からも「県として、積極的に国に働きかける」との言及がありました。

○●○県議会議員精神保健研究会現地交流会○●○

平成24年2月7日(火) 14:45~16:00 洲本市新淡路病院で県議会議員精神保健研究会が開催されました。

当日、精神保健研究会会員の県会議、県市町行政機関、兵家連(本條・涌波)及び淡路地区の3家族会(大谷俊いきいき家族会長・山口勇樹みはら家族会長・仲野紘介めばるの会家族会長)、新淡路病院福祉事業本部等が、

- ①淡路地域における精神障害者に向けた取組みについて
- ②精神障害者及びその家族を取り巻く情勢について、意見交換を行いました。

尚、意見交換会は、掛水すみえ民主党世話人の進行で進められ、意見交換会冒頭、山本敏信代表世話人からごあいさつがありました。家族会からも兵家連会長が代表してあいさつを致しました。

兵庫県議会議員精神保健研究会会員名簿(23.6.21現在)

会派	会員(○は世話人)計50人			
自由民主党 (26)	日村豊彦(豊岡市)	釜谷研造(加古川市)	永田秀一(南あわじ市)	藤原昭一(小野市)
	○山本敏信(高砂市)	加茂忍(川西市・川辺郡)	○小田毅(加西市)	石川憲幸(丹波市)
	松本隆弘(明石市)	加田裕之(長田区)	井上英之(加古川市)	原テツアキ(淡路市)
	上田良介(美方郡)	藤本百男(加東市)	内藤兵衛(多可郡)	北野 実(姫路市)
	小西隆紀(篠山市)	高橋しんご(東灘区)	仲田一彦(三木市)	大谷勘介(尼崎市)
	大前はるよ(西宮市)	安福英則(朝来市)	川井田清信(伊丹市)	榎本和夫(明石市)
	北浜みどり(灘区)	伊藤傑(須磨区)		
民主党・県民連合 (10)	○掛水すみえ(西宮市)	永富正彦(加古郡)	黒田一美(垂水区)	岸口実(明石市)
	上野英一(神崎郡)	徳安淳子(尼崎市)	越田謙治郎(川西市・川辺郡)	山本千恵(伊丹市)
	三戸政和(高砂市)	前田朋己(東灘区)		
公明党・県民会議 (7)	○大野ゆきお(姫路市)	合田博一(伊丹市)	下地光次(尼崎市)	谷井いさお(尼崎市)
	あしだ賀津美(北区)	越田浩矢(長田区)	島山清史(須磨区)	
日本共産党(3)	○ねりき恵子(宝塚市)	宮田しづのり(尼崎市)	きだ結(東灘区)	
無所属(4)	石原修三(西区)	和田有一朗(垂水区)	野々村竜太郎(西宮市)	中田英一(三田市)

TOPICS

兵庫県下各地・各家族会から（1）

但馬・丹波
地区

自立支援と一般就労に思う

木の根会家族会 会長 細見 辰夫

自立支援法が成立され、支援内容が利用者に負担増となり、現在新たに検討されていますが利用者に好条件の明確な支援法が提案されていません。その中で創意工夫を行い、自動車部品組立て、ローソクの詰め合わせ等の内職で僅かな工賃を稼いでいる状況ですが、僅かな工賃で働いている姿に明るさと、意欲と熱意に感動を覚えております。私はこのメンバーの中から一人でも二人でも自立し、安心して一般就労に移行できればといつも願っております。

最近、丹波地域では高齢化が進み、農地が耕作されずに雑草地（荒れ地）になっている所があり、今後は無耕作農地を借り受け、県・市・JAより指導員を依頼し、農作物の栽培を実施し、就労継続支援B型事業所、地域活動支援センターの施設で就労できれば健康的で、空気も美味しい、緑も多く、新鮮な野菜を食べたり、販売する作業を行なう事業所にできると思います。

現在の世の中で土に親しむ気持ちの人間も必要だと思います。①種を蒔く ②育てる ③成育する
④花が咲く ⑤実が生る ⑥収穫（食べる） ⑦販売 ⑧収益 ⑨喜び ⑩感謝

田舎の自然の中でのんびりと農業に親しみ、仲間達と気持ちの良い汗をかき、土と共に生きる、誰に遠慮することなく我が道を行く、私はこんな事業所を作りたいと思っています。

阪神地区

伊丹あじさいの会

川島 知子

私たち家族会は平成3年に発足。最初は3、4人の家族が保健所で保健師さんの指導のもと家族会がもたれていたそうです。平成7年の阪神淡路大震災後、県の補助金で作業所を立ち上げ家族会が運営にもたずさわりました。

作業所は軌道に乗り、NPO法人ICCCという5つの事業（地域活動支援センターニカ所、就労継続支援B型、指定相談事業、グループホーム）を行う大きな団体になってくれました。50名を超える当事者が登録しています。

昨年、もっと家族が病気の普及啓発を市民や関係機関、行政にしていかなくてはということで法人から独立して伊丹市の家族会となりました。会員は30名で平均年齢65歳以上。みな協力のもとなんとかこの一年間家族会を維持できたことに感謝です。今年1月30日の阪神地区精神保健福祉研修会も大盛況で終わりみなほっとしています。

家族会は月2回。一回は家ではいえないことや愚痴をはきだしストレス発散の場。一回は研修会や講演会の参加者からの報告や勉強をし、最後に大声で歌を歌って終わります。3月の定例会は伊丹浄水場を見学！その後みなで会食を楽しみました。

この団結した家族会の力で少しでも福祉施策がよくなり当事者と家族が安心して地域で暮らしていくように願っています。

TOPICS

兵庫県下各地・各家族会から(2)



神戸地区

北家族会

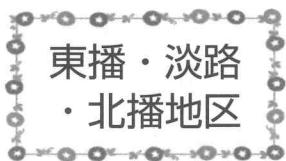
～県下で最初にできた地域家族会～

阿江 伸二

北家族会の歴史は古く昭和55年鈴蘭台周辺の家族数名が集まり、居場所作り、情報の交換をしたことに起因しています。県下では最も早い時期に出来た家族会の一つとされております。それ以来色々な変遷変革を経て現在の福祉法人「ゆうわ福祉会」へと繋がってきたわけですが、福祉会の発展と較べて家族会の勢いは近年下火とも言わざるをえません。現在40名程ですが、3年前まで毎月開いていた例会も、集まりが悪いので今のところ年4回程になっております。最近では非家族会員にも広く呼びかけて勉強会等開催しております。

家族のストレス軽減も大事な事ですのでボランティアの方、近所の方たちも招いて一緒にミニコンサートや郊外への行楽等もやって親睦を計るようにしています。

最近思うことは、一昔前と較べれば施設の種類も多くなり利用者の選択の幅も増えてきました。今後は中身をどうするかで、それらを生かす人材の質量共の充実、例えば診察医で埋めきれない部分の心理的なカウンセリング、これが大事。又心のリハビリをする上でのプランを立てるケアマネージャー的な人、プランを実行する上でのコーディネイター的な人の育成、それらが有機的に繋がりまた永続的なものにしていく事が望されます。



東播・淡路
・北播地区

明石ともしび会家族会の活動について

明石ともしび会理事長 南部 和幸

明石ともしび会では、家族会を毎月一回行っています。

勉強会をテーマにした場合は、通常10数人の集まりが20数人になります。やはり皆さん悩みが多く、病気に関する情報が必要と感じます。

先日は精神科の先生に薬の講義をしてもらいました。

皆さんから種々の質問が有り、活発な家族会とすることが出来ました。

今年度も家族会の皆さんからの要望を反映した運営を進めたいと思っています。

又、明石市で精神障害者の家族会が明石ともしび会だけのためか、新規に家族会に来られる方が時々おられます。

新規発症者の方にとって、同じ悩みを持っている方に始めて会うことが出来、胸の内を吐き出すことで少しでも気持ちが楽になり、明日も頑張ろうと言う気持ちになってもらえればと思います。

明石ともしび会には、就労継続支援B型に移行して3年目の喫茶店や内職を主体とした「さくら工房」、今年、就労継続支援B型に移行するクッキー作りと内職を主体とした「ふれあい作業所」、それから地域活動支援センターの「コスモス作業所」の3つがあります。

当事者の方々と連携した家族会として明石ともしび会を盛り上げて行きたいと考えています。

TOPICS

兵庫県下各地・各家族会から(3)

中・西播磨
地区

「わーくわくねっと(中播磨心的障がい者就労支援協議会) 行政・企業との連携を深めつつ、3年目の活動に入る！」

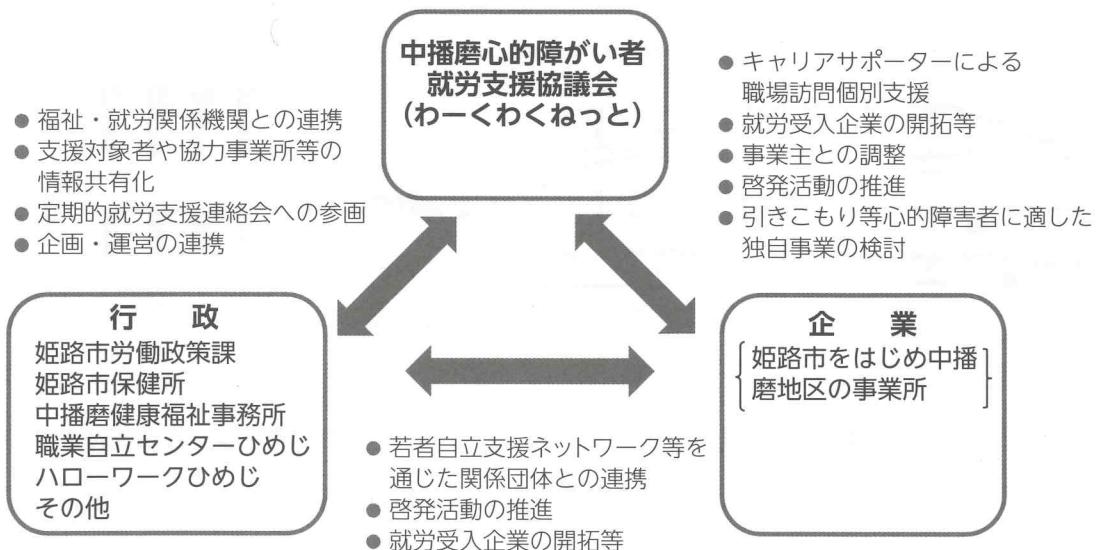
事務局長 濱中 美喜子

今から4年前に「姫路こころの障がい者自立支援チャリティゴルフ実行委員会」が姫路市の経済界、医療福祉および各界の方々に呼びかけ、ご参加を頂き開催した「姫路こころの事業団チャリティゴルフ大会」参加者の尊い寄付金を基金として設立し、今年も4回目を開催していただきました。

平成22年4月、「<心的障がい>は、<身体・知的障がい>に比べ大きく支援が遅れている。」「就労できない人や、就労できても定着ができない人が増加傾向にある。」と姫路市内の精神・ニート・ひきこもり等の各支援団体が集まり、関係公共機関、職親会などと連携を密にしながら就労支援を目指す「姫路こころの障がい者就労支援協議会」を設立し、その後、同年6月「中播磨心的障がい者就労支援協議会」(愛称：わーくわくねっと)と名称を変え、同年10月からキャリアサポーターによる企業就労支援活動のための巡回活動等を本格的に開始しました。また、平成22年度から2年間「ひょうごボランタリー基金助成事業」からも姫路市との「行政・NPO協同事業(NPO提案型)」として助成金交付を受けました。

現在は姫路精神障がい者家族連合会(ひめかれん)加盟団体、(有)サポートセンターれいめい(職親企業)、コムサロン21(ひめじ若者サポートステーション)、医療法人恵風会地域活動支援センターけいふうなど12団体19施設が加盟しています。

全国に先駆けた心的就労支援の取り組み



平成24年度にはNPO法人コムサロン21と共に「若年者社会的中間就労支援センター・コ・ワークひめじ」をスタートさせました。これはすぐには一般就労が困難なニート、ひきこもり、心的障がい者などの若者に対し毎日の仕事を軸にして生活のリズムを整えながら自分たちの能力、気力、体力、技能に応じてマイペースでの就労ができる場を提供するのが目的で姫路駅から近い事務所兼作業場で「社会への自立に向けた就労支援の新たな取組み」を行っています。

菊山裕貴先生の講演「統合失調症はどこまでわかったか」を聞いて 木の芽家族会 藤田睦

最初にこの講演会を企画してくださった尼崎市・尼家連に感謝です。全福連機関紙「みんなねっと」に同じ表題で連載してくださっている大阪精神医学研究所新阿武山病院の先生です。

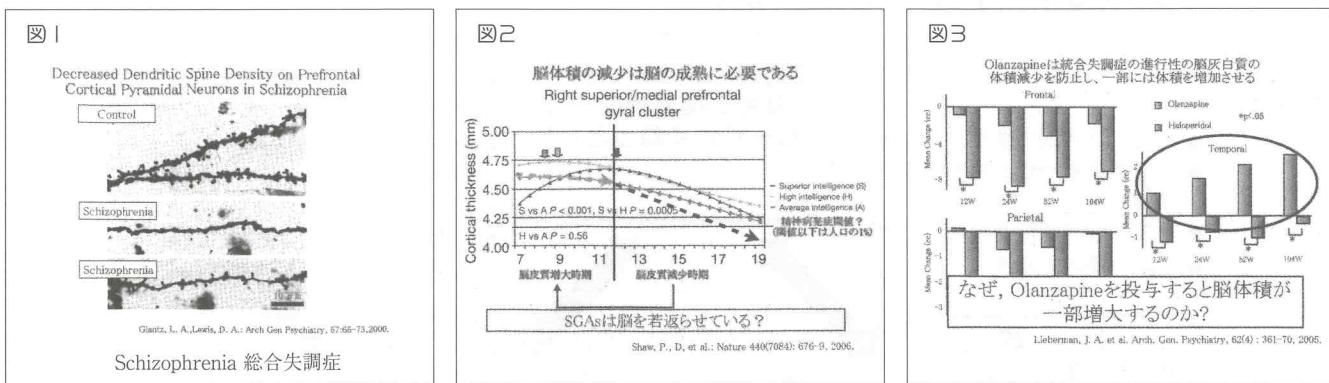
まず統合失調症について、現状の医療側の見解“治ります”は「寛解即ち急性期の症状はとれます。症状は一部残ります」を意味しますが、当事者、家族は「風邪が治るように跡形もなく治る」を本心求めていられると痛みを受け止められていることが伝わってきました。私達家族、当事者の方々がくじけず努力し、医療、福祉、支援者の方々が支えてきてくださっていることが報われている、希望に繋がるということを明らかにされるお話をしました。私が伝えたいと思ったことを5つあげてみたいと思います。

- (1) 電子顕微鏡下で統合失調症の神経細胞が可視できて脳神経細胞の病気なのですね。(図1)
- (2) 脳体積の減少は脳の成熟に必要な自然の働きだが、統合失調症では閾値をこえている。(図2)
- (3) 遺伝子本体のDNAのメチル化が統合失調症では亢進していて、これは加齢の方向。

ここまで現実(脳内で起きていること)を見つめるものでしたが、このような仕組みがわかってきているということが大きいことなんですね。ここからが勇気を与えるものでした。

- (4) オランザピンに神経再生作用がある。(SGAsや抗うつ薬、ECTは神経新生を促進する)

第2世代の薬(SGAs)が神経再生を促し、脳体積減少をとどめ、一部には体積を増加させている。すごいことですよね。また薬を飲み続けることの大切さがここだったんです。(図3)



- (5) 余談として、新阿武山病院院長先生はサッカー・フットサルを薦めている。菊山先生はランニングを(心拍数が普段の1.5倍ぐらいの)。私達は生き生きと、ご自身にあった生活を作り、沢山の回復している当事者の方と出会っていることからも、スポーツだけではなくという広がりを感じさせられました。すぐにそこまで手が届かなくても「長期の適切な治療を受ければ脳の再発達をうながせるかもしれない」という先生の言葉に、SGAsが神経再生を促進している事実に、希望です。是非神戸にもお呼びしたい。

第7回兵庫県障害者芸術・文化祭
「美術工芸作品公募展」が開催されました

標記公募展が3月13日～18日に原田の森ギャラリー（兵庫県立美術館王子分館）で開催されました。絵画、書道、工芸、写真の各分野から498点の応募があり成功裏に終えました。18日には、分野別に県知事賞、県議会議長賞、神戸新聞厚生事業団理事長賞、共通で審査員特別賞、兵身協理事長賞県育成会理事長賞、兵家連会長賞の授与式が行われました。

兵家連会長賞には、高木美帆さんの「平安」が選ばれました。

受賞者のコメント

兵家連会長賞をいただき大変うれしいです。私も家族がいますが、私だけでなく家族も周りのみんなも喜んでくれていると思います。私は15歳で阪神大震災に遭いました。東日本大震災に遭われた人を絵を通して励ましたいと思います。ありがとうございました。



平安

コラム 震災・原発事故がこころに与える影響

東日本大震災から1年が過ぎました。1995年に阪神淡路大震災に遭遇した私たちにとって、東北でのあの出来事は決して他人ごとではありません。不安、恐怖、喪失、不安定な非日常の連続。「日常」や「安心」の貴重さが身に染みます。この度は人災である原発事故も起こりました。災害によるPTSDや東北の方々の心のケアがずっと気になっていました。

そこへ3月26日の毎日新聞に掲載されたという福島県立医大神経精神医学講座（和田明助教ら）によるアンケート調査の結果を知りました。それは、福島県内27病院から回答を得たもので、「東京電力福島第1原発の事故後に精神科に入院・再入院した患者のうち、入院に放射線被ばくへの恐怖が関連していた可能性のある人が24.4%。実に全体の4分の1に達していた」とのことでした。また、「外来患者も、原発事故との関連があるとみられる新患は3割を占めた。」「関連がある患者の割合は原発に近い地域ほど高かった。また事故後1か月以内の入院・再入院の人が大半、年齢では40～50代の人が半数以上。大勢が集まる避難所のストレスに被曝の不安が重なったケースも見られた」との貴重なデータです。

家族の体験

「手記」

しらさぎ家族会 小倉 千鶴子

今日もちょっと変わった足取りでバス停に向かう長女を窓越しに見送る。強風が吹けがふらっと車道によろけそうな後姿・・・

その作業所「はりまっ子」は唯一この娘のいきがいの灯りのついた場所・・・何キロメートルも離れたその作業所から長い長い目に見えないロープで引っ張られているのかなと思うほど急ぎ足で歩く。

もう20年も過ぎたあの日職場からの帰り道、交通事故に遭い40日間も生死をさまよい「99%をあきらめてほしい」と医師からの宣告、昨日のように耳に残る。わずか1%に親として望みをかけ、ベッドの上で今にも消えそうな寝息を立てて眠り続ける娘の耳元で、『元気になればあなたの大好きな光ゲンジのコンサートどこへでも連れて行ってあげる』と何回何百回約束したことか・・・

しかし、頭に大人の拳大の人工骨を埋め込み奇跡の娘の異名をもらい数カ月後に退院、なにはともあれ生きていることに喜んだのもつかの間、高次脳機能障害、あまり聞いたこともない病名を持つ娘への風当たりは強すぎた。元の職場に復帰しても簡単にこなせた仕事は続かず、間もなく退職。

いろんな職場を転々とするが焦れば焦るほど空回り、あの時耳元での約束コンサートどころか、親娘で死への旅立ちさえ考えた日々、山あり谷ありと言うが谷底ばかり歩いていた気がする。

そんな時運よく出会ったのがはりま福祉会の職員さんだった。娘にとって光ゲンジよりも光り輝いた人と思えただろうが、悲しいかな私を含む家族は障害者の方の憩いの場であるはずの作業所が受け入れられず、偏見を持ち、理解するまで相当の時間が必要だった。

娘がここが生きがいと思うのに時間は必要なかった。必要だったのはそこで出会った方々の何気ない声かけと思いやり、気長な支援だったと思う。

娘が生きがいを見つけた場所なのに私たち家族は何回も何回も連れ戻し作戦を試みた。しかし、どんな作戦にも屈することのなかった娘、今バスの中に消えた。約1時間を過ぎたころ、同じバス停に降りた人たちがささやかでもここを生きがいと思ってくれることを望みつつ、はりま福祉会の一角書写作業所の代表として今度は支援する立場で出迎える私。精一杯の笑顔と元気で、「おはよう」と…



兵庫県精神障害者家族会連合会 H23年度 相談業務報告(障害者110番)

平成23年度担当者：18名

①月別延べ相談数

4月	148
5月	92
6月	118
7月	116
8月	74
9月	104
10月	146
11月	137
12月	144
1月	110
2月	105
3月	133
合計	1,427件

※1ヶ月平均 約119件

②男女比

男	女
875	552

③当事者割合

当事者	家族等
1,045	382

④年齢別件数

20歳未満	16
20歳代	114
30歳代	264
40歳代	561
50歳代	375
60歳代	58
70歳以上	39

⑥相談内容別件数

家族・家庭	572件	福祉サービス	239件
人生・家族	511	在宅福祉サービス	78
家庭生活	61	施設・機関・窓口	157
その他	0	福祉機器	0
法律 9件		介護・介助	3
家族問題	0	その他	1
財産・金銭	6	生きがいづくり	70件
事故・賠償	0	趣味・余暇活動	67
人権	3	社会参加	3
その他	0	行事情報	0
経済・生活 180件		その他	0
生計	19	保健・医療 351件	
所得保障	14	保健・衛生	45
年金・手当・恩給	59	医療相談	300
税金	1	医療費	4
住宅・設備	3	医療関係機関	2
仕事	90	その他	0
その他	0	合計 1,427件	

⑤地区別件数

神戸市	856
阪神南	185
阪神北	61
東播磨	265
北播磨	29
中播磨	6
西播磨	3
但馬	2
丹波	2
淡路	1
県外	17



お気軽にご相談ください 兵家連電話相談

病気の事や経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度（手帳・年金・他）利用の手続きなどについて、県から相談員として委嘱された家族会員や精神保健福祉士などが相談に応じます。ぜひご利用ください。

TEL. 078-891-3886

ハロー

土・日・祝日を除く平日10:00~12:00、13:00~15:00

精神科救急窓口の案内

精神科救急情報センター

電話番号 078-367-7210

平 日：午後5時～翌日午前9時

土・休日：午前9時～翌日午前9時

(平日昼間は健康福祉事務所へ)

◆ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に告げてください◆

電話
相談



Q&A

PSW 道川内 由香

医療費の助成制度について

この度もご相談頂いたご家族からの事例を取り上げたいと思います。
尚、秘密厳守の立場から内容は若干変更させていただいております。

質問 病院の受診費用が高くて困っています。

50代になる弟のことで相談です。現在、精神科クリニックに定期的に通院を続けていますが、糖尿病も患っており、内科への通院も継続的に必要な状態です。他にも、足が悪く整形受診、歯の治療が必要と様々な病院へ受診をしないといけません。

精神科クリニックの受診費用は自立支援医療費助成制度を利用し、1割の医療費負担で済んでいるので大変助かっています。しかし、その他の医療費がかなり高額になり、本人も受診費用を気にかけ、必要な医療を受けられなくなるのではないかと心配しています。

私も年金生活で援助してやることも難しく、自立支援医療費助成制度のように安心して受診できるような制度はありませんでしょうか。

回答 重度障害者医療費助成制度についてお答えします。

本当に必要な医療が受けられなくなるのでは…と思うと、とても心配になりますね。

精神科に通院されている方で、他の科も定期的に通院しなければならないために通院費の負担が大変…という話をよく耳にします。精神科の通院については、ご質問のとおり**自立支援医療費助成制度**というものがありますが、その他の病院を受診される際に利用できる制度として、**重度障害者医療費助成制度**というものがあります。

これは病院に通院や入院する際、支払いが一定額に軽減されるというもので、所得制限があるため負担額については世帯の所得に応じて金額が決まります。

対象者は障害者手帳をお持ちで障害の程度が重い方ですが、市町村によって対象となる障害等級が異なります。精神保健福祉手帳の方は精神疾患による医療は対象となりませんが、身体障害者手帳や療育手帳の方は、それに限りません。

手続きは、お住まいの市区町村役場になります。詳しくは担当窓口にお問い合わせ下さい。通院をきちんと続けられることで、ご本人もご家族も安心した生活を送れるといいですね。

兵家連活動日誌

役員の動き

- 1月**
- 4 兵庫県関係者新年交礼会参加〈兵庫県公館〉 (本條)
 - 5 新年挨拶回り〈兵庫県・神戸市他〉 (本條・涌波)
 - 7 兵庫県精神科病院協会年賀会〈クラウンプラザホテル〉 (本條・涌波)
 - 11 三役会議〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎)
家族会部会〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎・大倉・河上)
 - 12 知事新年面談(3障害団体)〈県庁〉 (本條・涌波)
兵庫県社会福祉審議会〈農業共済会館〉 (本條)
 - 13 國際障害者交流センター運営協議会〈堺市〉 (本條)
公明党新春年賀会〈クラウンプラザホテル〉 (本條)
 - 16 みんなねっと〈東京東池袋〉 (本條)
 - 17 兵家連精神保健福祉講座(第4回)〈県福祉センター多目的ホール〉
 - 18 東播磨・淡路地区精神保健福祉研修会〈加古川総合福祉会館〉 (加古川地区3家族会)
 - 19 福岡県連(講師)〈福岡県吉塚合同庁舎〉 (本條)
 - 21 家族教室阪神南地区(芦屋市)〈芦屋市保健福祉センター〉 (芦屋家族会)
 - 23 家族教室中播地区(姫路市)〈姫路市保健所〉 (NPO法人えんじるの会)
 - 30 阪神地区精神保健福祉研修会〈伊丹ホール〉 (あじさいの会)
 - 31 前神戸市長嶽山幸俊氏お別れの会〈国際会館こくさいホール〉 (本條)
 - 1 三役会議〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎)
家族会部会〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎・大倉・河上)
 - 2 福祉のまちづくり会議〈県福祉センター会議室〉 (米)
 - 4 家族教室西播地区(相生市)〈相生いきがい交流センター〉 (赤組みのり家族会)
奈良まほろば会電話相談員研修(大和郡山市三の丸会館) (本條・馬場・石本)
 - 6 みんなねっと災害対策本部〈みんなねっと事務局〉 (本條)
 - 7 家族教室東播・淡路地区(明石市)〈明石健康福祉事務所〉 (明石ともしび会家族会)
平成23年度第3回理事会〈県福祉センター201会議室〉 (理事・監事・顧問)
県議会議員精神保健研究会 現地交流会〈洲本市新淡路病院〉 (本條・涌波)
 - 13 第2回兵庫県障害福祉審議会〈兵庫県職員会館〉 (本條)
中播磨心の障害者就労支援協議会〈姫路市民会館〉 (本條・涌波)
 - 18 家族教室丹波地区(三田市)〈三田市総合福祉保健センター〉 (にじの会)
家族教室阪神北地区(宝塚市)〈宝塚市ソリオ2〉 (宝塚家族会)
 - 20 第2回神戸地域障害者雇用・就労支援ネットワーク会議〈兵庫県看護協会会館〉 (涌波)
 - 21 兵家連精神保健福祉講座(第5回)〈県福祉センター多目的ホール〉
兵庫県スポーツ振興計画策定委員会〈県庁2号館第2会議室〉 (上田)
 - 22 家族教室但馬地区(養父市)〈但馬長寿の郷〉 (のぎく家族会)
 - 28 平成23年度精神障害者相談員養成研修(播磨東部地域)〈加古川市男女共同参画センター〉 (市町から新たに推薦を受けた方および精神障害者相談員)
- 2月**
- 3月**
- 4月**

- 2 長崎県連相談リーダー研修会(講師)〈長崎県総合福祉センター〉 (本條)
第3回権利擁護部会〈県福祉センター202会議室〉 (瀬谷崎)
平成23年度精神障害者相談員養成研修(播磨西部地域)〈姫路市市民会館〉
(市町から新たに推薦を受けた方および精神障害者相談員)
- 7 三役会議〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎)
家族会部会〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎・大倉)
第3回障害者雇用・就業支援ネットワーク県レベル会議〈のじぎく会館〉 (涌波)
- 8 家族教室中播地区(福崎町)〈福崎町文化センター〉 (NPO法人中播磨峰の会)
平成23年度精神障害者相談員養成研修(阪神・丹波・淡路地域)〈尼崎市立すこやかプラザ〉
(市町から新たに推薦を受けた方および精神障害者相談員)
- 9 第7回県障害者芸術・文化祭美術工芸作品公募展選考会〈原田の森ギャラリー〉 (本條)
- 10 宮崎県連相談リーダー研修会(講師)〈宮崎市中央公民館〉 (本條)
- 12 平成23年度精神障害者相談員養成研修(但馬・丹波・播磨北部地区)〈兵庫県和田山庁舎〉
(市町から新たに推薦を受けた方および精神障害者相談員)
障害者社会参加推進協議会〈県福祉センター203会議室〉 (本條)
- 13 第7回県障害者芸術・文化祭美術工芸作品展(受付)〈原田の森ギャラリー〉 (藤田睦)
- 14 平成24年3月(24年度予算)総会〈県福祉センター多目的ホール〉 (家族会会長・兵家連役員)
- 15 第7回県障害者芸術・文化祭美術工芸作品展(受付)〈原田の森ギャラリー〉 (梶山)
- 17 岡やすえ前県会議員の叙勲を祝う集い〈宝塚ホテル〉 (本條)
- 18 第7回県障害者芸術・文化祭美術工芸作品公募展表彰式〈原田の森ギャラリー〉 (本條)
- 19 みんなねっと理事会〈東京都障害者福祉会館〉 (本條)
- 20 第3回兵家連きょうだい会〈県福祉センター201会議室〉 (大倉)
- 21 家族教室北播地区(三木市)〈三木市立障害者総合支援センター〉 (ほのぼの会)
公益法人移行認定書交付及び認定後手続等説明会〈兵庫県西館大会議室〉 (本條・事務局)
- 22 県精神救急医療体制連絡調整委員会〈県民会館〉 (河上)
- 23 県障害者自立支援連絡協議会「平成23年度全大会」〈兵庫県民会館〉 (米)
- 27 (財)県障害者スポーツ協会理事会〈県民会館〉 (本條)
会誌「兵家連」No.70編集会議〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・久下・坂井)
- 28 県社協評議員会〈県福祉センター多目的ホール〉 (本條)
県地域生活定着支援センター運営推進協議会〈県中央労働センター〉 (米)
- 4 三役会議〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎)
家族会部会〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米・瀬谷崎・河上)
- 5 由岐税理士往訪〈由岐税理士事務所〉 (本條)
- 11 県障害福祉課 城係長来所〈兵家連事務所〉 (本條)
ひまわり家族会 岡田様来所〈兵家連事務所〉 (本條)
- 12 平成24年度第1回近畿ブロック代表者連絡会〈県福祉センター相談室〉 (本條・涌波・米)
- 14 木の根会家族会総会〈ハートフルかすが〉 (本條)
- 20 社会福祉法人さくらんば増田様と就労訓練打合せ〈兵家連事務所〉 (本條・事務局)
いこいの場ひょうご(当事者の会)代表と面談〈兵家連事務所〉 (本條)
- 25 NPO法人中播磨峰の会総会〈福崎町サルビア会館〉 (本條)
- 29 県障害者のじぎくスポーツ大会車いす使用者の部〈ユニバー記念教事業〉 (涌波)

ご協力 ありがとうございました

平成23年度も、下記の団体及び個人の方々が兵家連活動にご賛同頂き、賛助会員にご加入頂きました。厚く御礼申し上げます。今後ともよろしくお願い申し上げます。（順不同、敬称略）（平成24年3月31日現在）

医療機関の部

有馬高原病院、寺内・高橋心療クリニック、医療法人尚正会 湊川病院、永安心療クリニック、
 石川神経科診療所 石川哲三、雄岡病院院長 谷口敬子、医療法人社団高島クリニック理事長 高島繁樹、
 宮崎クリニック 宮崎隆吉、花田神経内科クリニック 花田進、吉村神経内科 吉村寛、
 医療法人千水会 赤穂仁泉病院、松下メンタルクリニック 松下寿能、大植病院、中山神経内科、
 はんしんメンタルクリニック（真殿実）、医療法人社団東峰会 関西青少年サナトリューム、
 医療法人社団かもめクリニック理事長 今村洋一郎、金高医院、牧原クリニック、
 医療法人達磨会（理事長 森慈郎）、医療法人社団造山会 まきび病院、医療法人古橋会 岸保川病院、
 医療法人実風会 新生病院、いずみ心療クリニック 谷口加容、大森クリニック 大森和広、
 原田心療クリニック 原田元基、播磨大塩病院、医療法人内海慈仁会 姫路北病院、
 医療法人社団隨縁会 ことしろクリニック（理事長 印部亮介）、あしたクリニック 千郷雅史、橋本クリニック、
 池永クリニック 池永雅彦、平本医院 平本憲孝、片岡医院、たなか心療内科 田中勇三、
 まつい心療クリニック（松井律子）、向陽病院作 業療法室、新川医院 新川賢一郎、
 神戸市立中央市民病院精神神経科 北村登

一般団体の部

株式会社アルファメディックス、株式会社クルースプランニング、社団法人兵庫県トラック協会、
 社団法人伊丹市医師会、株式会社メディプラン、一般社団法人赤穂市医師会、いこいの場ひょうご、
 有限会社タツマ商事取締役 藤田ヒサエ、社団法人兵庫県医師会、社団法人宝塚医師会、北家族会、
 社団法人兵庫県民間病院協会会长 吉田耕造、社団法人神戸市歯科医師会会长 住谷幸雄、佐用郡医師会、
 NPO法人オーラニックライフコラボレーション、いしがき社労士事務所 石崎清一、兵庫県高齢者生活協同組合、
 和歌山県精神保健福祉家族会連合会

法人・施設・作業所の部

NPO法人ハートフル、NPO法人ドリーム&YUME作業所、NPO法人あいらんど、社会福祉法人すいせい、
 NPO法人オリーブの木 就労支援センターおむすび、NPO法人居場所理事長 阪田憲二郎、
 NPO法人つばさ 地域活動支援センターあゆみ、カトリック聖ヨハネ病院修道会（代表役員 岡清数）、
 蓼の会ぐりんどあ、NPO法人来楽輪、淡路障害者生活支援センター、NPO法人はなみずき、
 NPO法人神戸あすなろの会理事長 上脇洋子

個人の部

藤原武光、上野英一、藤本百男、北川泰寿、大井敏弘、北野実、小田毅、掛水すみえ、新町美千代、谷口俊介、
 北浜みどり、小西隆紀、藤原武光、藤原昭一、小林るみ子、岡やすえ、金沢はるみ、盛耕三、安福英則、
 春名哲夫、あしだ賀津美、中田英一、浜崎為司、梶谷忠修、大脇和代、吉田謙二、延藤充、櫻井文男、辻征子、
 久保照代、青木彦一、神澤正三、藤村真喜男、上田一子、宮元隆雄、谷洋四郎、旧谷芳光、伊賀春夫、
 砂子了一、高井武雄、今中和男、藤尾やす子、中元幸治、田原久子、田中英雄、井上忍、大西月美、中井久夫、
 本多雅子、磯野博、金田知子、朝田一郎、鈴垣育子、今村ハル子、青木聖久、上田修司、牛丸忠夫、和泉夏子、
 三谷道文、多田トモ子、筒井周子、中村慶江、高野純江、藤田修美、岩田優、吉林祐子、藤岡正子、下川邦子、
 伊賀美枝子、三村花、匿名希望1名

編集後記

厚労省は昨年7月、精神疾患を加え「5大疾病」に位置づけ、重点対策を行うことを決めました。その背景には、精神疾患の患者は323万人にのぼり、年間自殺者は約3万2千人以上です。長期入院を強いられる「社会的入院」は約6万2千人の現実です。在宅医療の充実は兵家連としての最大の課題です。（涌波）

編集委員 / 本條・涌波・米・久下・坂井・瀬谷崎・伊東・梶山